

第5章 社会参加と社会意識

－6 地域の比較－

札幌学院大学社会情報学部 高田 洋

1. 社会参加

民主主義社会において、国民の社会参加は基本的な要件である。選挙における参加はもちろんのこと、それ以外でも、政治的決定に関して国民が異議申し立てを行うことや、あるいは、政治が直接にはカバーしきれない領域において、ボランティアや団体活動を行うことは国民主権や参加の観点から、国民の基本的権利として認められている。政治的決定に対して国民が公正で合法的な手段によって、参加する権利を持つことは民主主義社会の基本的要件である。

今回の6地域（仙台、仙北、東京、ソウル、大邱、春川）の調査においては、社会参加については3つのことが質問されている。すなわち、「地域の有力者や役所に要望や世話を願います」こと、「選挙運動を手伝ったり投票を働きかける」こと、「社会的活動（ボランティア活動、消費者運動）に参加する」ことである。図1から図3は、この6地域別の社会参加の分布である。

「有力者や役所への要望」はどの地域も70%程が「やったことがない」が、地域別に幾分の違いがある。日本と韓国いずれにおいても、人口が少ない地域（仙北・春川）に住む人が要望を行った経験が多い。仙台や大邱はこれらの2つの地域と比較すると要望を行った人は少ない。首都においては、日韓の差があり、東京は要望がもっとも少ないのに対し、ソウルは大邱よりも多い。選挙運動は、日本では人口が少ないほど参加しているという傾向が見て取れるが、韓国においては人口にかかわらずほぼ同程度の参加が見られる。社会的活動も、韓国はどの地域においても40%以上が参加しているが、日本は仙北・仙台・東京で違いがあり、順に参加の程度が高くなっている。

本研究では、こうした社会参加の規定要因として、「社会民主主義」「政治的無力感」「伝統的権威主義」「新自由主義」の4つの政治に関する社会意識をとりあげ、その規定様式の地域別の違いを明らかにすることを目的とする。

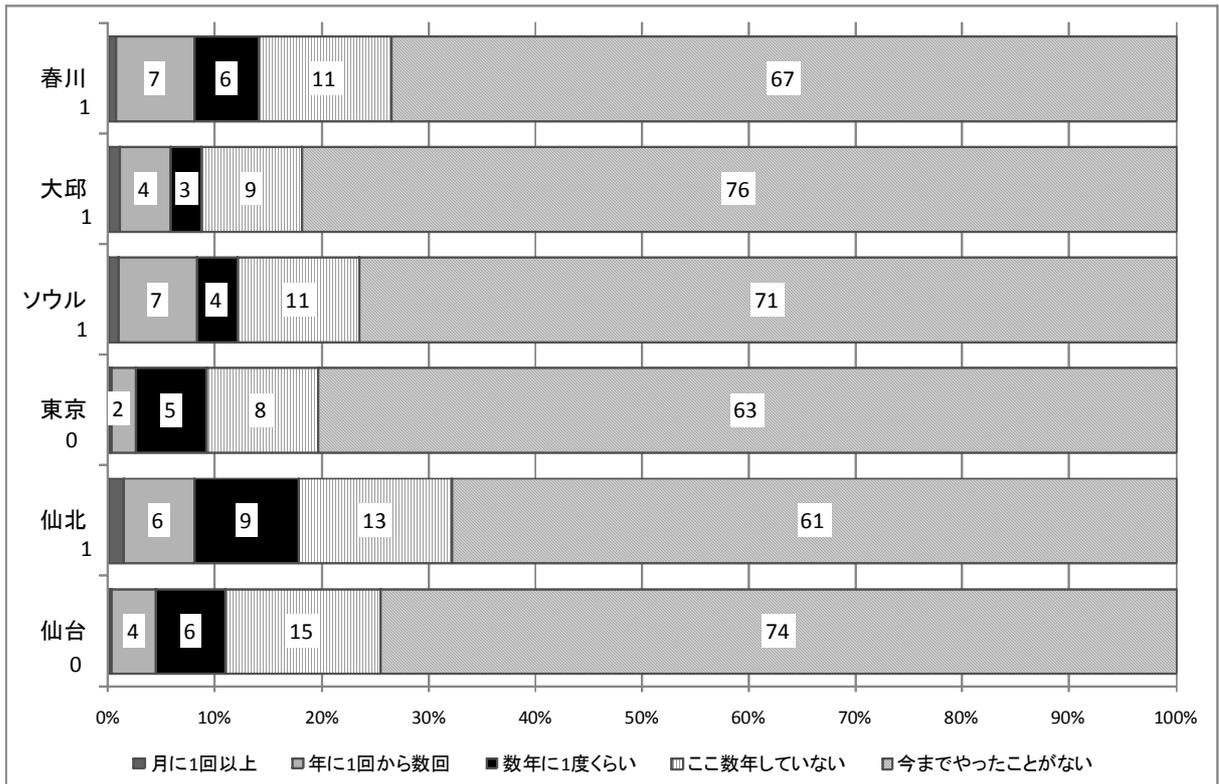


図 1 地域別の有力者・役所への要望

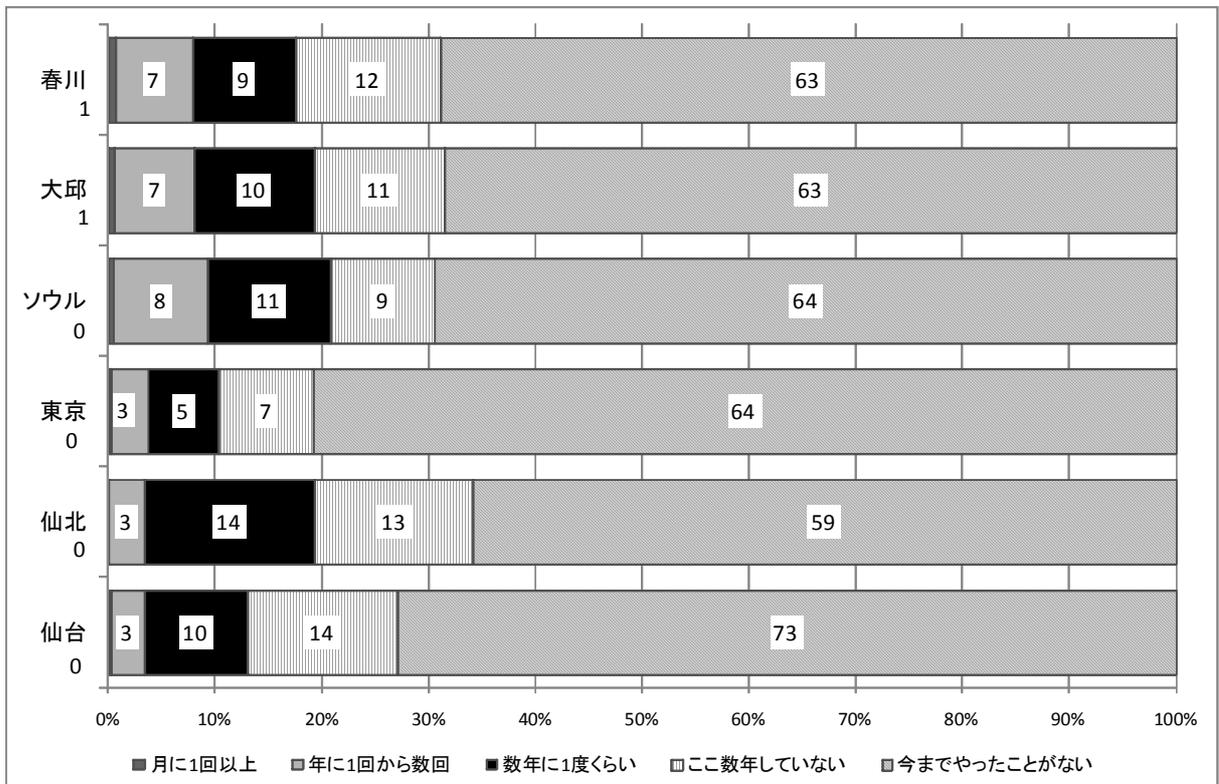


図 2 地域別の選挙運動

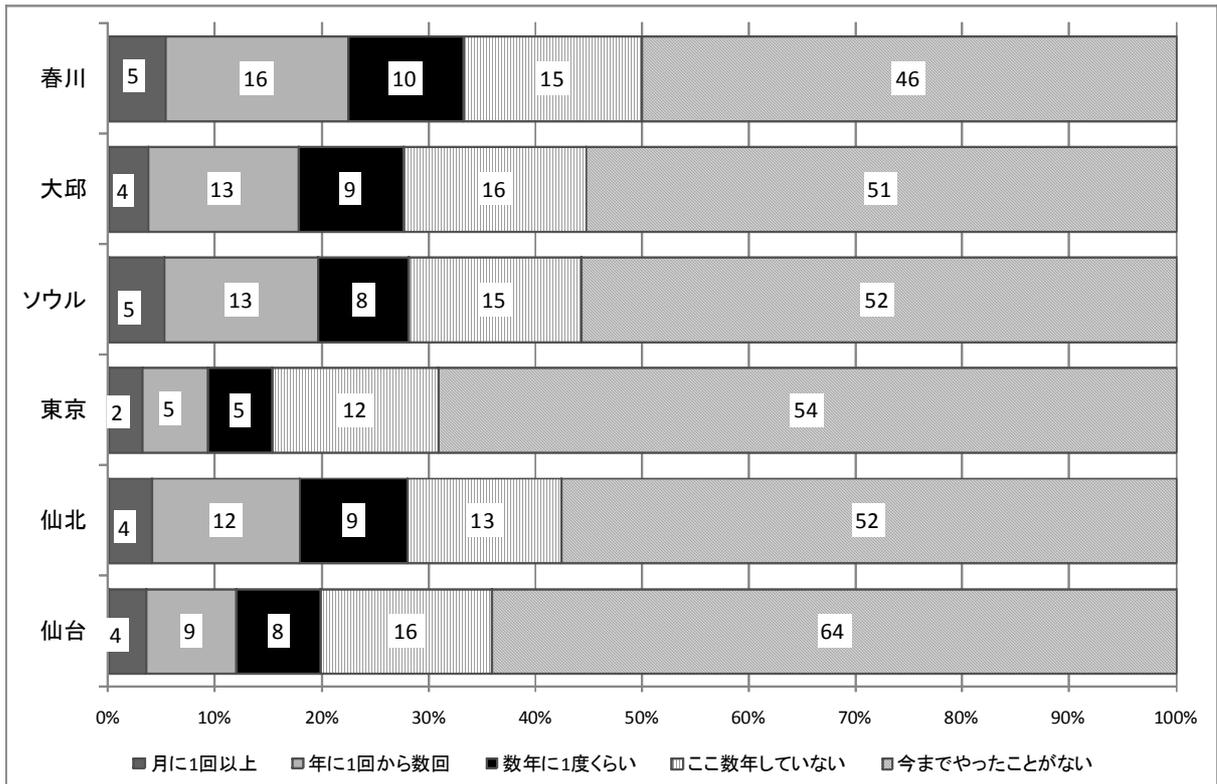


図 3 地域別の社会的活動

2. 社会意識の構造

(1) 日本の社会意識の構造

社会意識の地域別の構造を因子分析によって見ていく。今回の調査においては14の社会意識項目が調査されている。4因子の構造を仮定し、各地域における因子構造をみてもみる。これらの分析においては、因子抽出方法は主因子法、回転はプロマックス ($\kappa=4$) 回転で解釈する。

まず、東京の社会意識の構造である。第1因子には、「福祉を充実」「相続税を増やしてもよい」「貧しい人の所得税は減らす」「貧富の差が大きすぎる」というような社会民主主義的な価値観の因子負荷量大きい。社民主義が第1の軸であるといえる。第2因子は、「政治を変えることはできない」「国民の意見は反映されない」「自分の意見を代表する政党はない」という政治的無力感に関する項目の因子負荷量大きい。第3因子は「男は外で働き女は家庭」「政治はやりたい人にまかせる」「権威のある人々には常に敬意」という権威主義的価値観で構成されている。第4因子は「伝統に合わないことやこれまでと異なるやり方でも受け入れる」に負の負荷量、「すべての人々が同収入」に正の負荷量がある。「国民総中流」を支えていたような伝統的平等主義ともいべき因子がある。

表 1 社会意識の因子パターン（日本の3地域）

東京	共通性	1	2	3	4
男は外で働き女は家庭	.149	.065	-.222	.411	.054
政治はやりたい人にまかせる	.325	-.053	.077	.552	-.041
伝統に合わないことも受け入れる	.116	.166	.053	-.052	-.404
親の地位は必要	.236	.201	.250	.201	-.024
政治を変えることはできない	.431	-.123	.519	.257	.053
すべての人が同収入	.466	.215	-.003	-.007	.540
福祉を充実	.471	.682	-.003	-.001	.010
国民の意見は反映されない	.377	.130	.587	-.107	.007
相続税を増やしてもよい	.499	.788	.008	.068	-.212
権威のある人々には常に敬意を	.137	.120	-.131	.307	.133
政府が介入しないほうが	.068	.099	.256	-.098	-.054
貧しい人の所得税は減らす	.605	.818	-.003	-.005	-.070
自分の意見を代表する政党はない	.288	-.054	.622	-.143	-.056
貧富の差が大きすぎる	.390	.355	.112	-.029	.291
寄与率		19.969	6.320	3.809	2.447
累積寄与率		19.969	26.289	30.098	32.545
仙台	共通性	1	2	3	4
男は外で働き女は家庭	.055	-.040	-.106	.072	.230
政治はやりたい人にまかせる	.119	.057	-.007	-.069	.354
伝統に合わないことも受け入れる	.097	.073	.092	-.105	-.303
親の地位は必要	.142	.004	.134	.211	.148
政治を変えることはできない	.451	-.020	.424	.014	.403
すべての人が同収入	.433	-.010	-.096	.676	.077
福祉を充実	.505	.632	-.014	.135	-.053
国民の意見は反映されない	.376	.073	.554	.118	-.142
相続税を増やしてもよい	.428	.688	.042	-.117	.103
権威のある人々には常に敬意を	.126	.161	-.195	-.015	.327
政府が介入しないほうが	.098	.112	.328	-.117	-.117
貧しい人の所得税は減らす	.572	.723	.019	.050	-.033
自分の意見を代表する政党はない	.411	-.074	.691	-.029	-.097
貧富の差が大きすぎる	.474	.110	.062	.597	-.046
寄与率		17.840	6.296	4.127	2.364
累積寄与率		17.840	24.136	28.264	30.628
仙北	共通性	1	2	3	4
男は外で働き女は家庭	.188	.003	-.031	.434	-.036
政治はやりたい人にまかせる	.123	-.114	.157	.298	-.051
伝統に合わないことも受け入れる	.097	-.117	.022	-.070	.269
親の地位は必要	.184	.039	.342	.170	.056
政治を変えることはできない	.377	-.157	.627	.101	-.098
すべての人が同収入	.334	.396	.126	.103	-.244
福祉を充実	.485	.740	-.102	-.021	-.052
国民の意見は反映されない	.351	.122	.528	-.147	.167
相続税を増やしてもよい	.356	.592	-.006	.043	.032
権威のある人々には常に敬意を	.223	.098	-.093	.461	.111
政府が介入しないほうが	.235	.071	.215	.145	.406
貧しい人の所得税は減らす	.582	.780	-.036	-.005	.083
自分の意見を代表する政党はない	.302	-.002	.560	-.088	.122
貧富の差が大きすぎる	.365	.402	.263	-.093	-.176
寄与率		17.768	5.472	4.014	2.762
累積寄与率		17.768	23.241	27.255	30.017

注)プロマックス回転後の因子パターン

地方都市である仙台は、第1因子と第2因子は東京と同じ因子が抽出されている。第1因子の社民主義は、東京で負荷量が大きかった4項目から「貧富の差が大きすぎる」を除いた項目によって構成されている。第2因子は、同じ項目の負荷量が大い政治的無力感である。第3因子は、東京の第4因子である伝統的平等主義の項目の1つである「すべての人々が同収入」に加えて、「貧富の差が大きすぎる」の負荷量が大い。「国民総中流」とはやや異なる平等主義が抽出された。第4因子は、「男は働き女は家庭」「政治はやりたい人にまかせる」「権威のある人々には常に敬意」に加えて、「政治を変えることはできない」の正の、「伝統に合わないことやこれまでと異なるやり方でも受け入れる」の負の要因の負荷量が大い。権威主義の因子が抽出されているといつてよい。

さらに人口が小さい仙北地域であるが、東京と同じ4項目の因子負荷量が大い社民主義が第1因子である。第2因子も、東京、仙台と同様の政治的無力感である。第3因子は、東京の第3因子、仙台の第4因子と近く、権威主義的価値観である。第4因子は、「政府が介入しない方が経済活動はうまくいく」のみ負荷量が大い、新自由主義的な価値観が抽出されている。

日本の3地域においては、社民主義と政治的無力感の2因子が共通して抽出されており、それに加えて、権威主義、平等主義、新自由主義の3つの因子のうち2つの組み合わせが地域によって抽出されている。

(2) 韓国の社会意識の構造

次に、韓国の社会意識の構造を見ていこう。ソウルは、「すべての人が同収入」「福祉を充実」「相続税を増やしてもよい」「貧しい人の所得税は減らす」「貧富の差が大きすぎる」の負荷量が大い第1因子が抽出された。ここでも、第1因子は社民主義である。第2因子は「男は外で働き女は家庭」「政治はやりたい人にまかせる」「権威のある人には常に敬意を」という項目の因子負荷量が大い権威主義的価値観が抽出されている。この因子が2番目に表れることは日本の各地域とは異なっている。第3因子は「親の社会的地位が高くないと、高い地位にはなかなかつけない」と「政治を変えることはできない」の2つの因子負荷量が大い、保守主義的な傾向が現れている。第4因子は、「自分の意見を代表する政党はない」のみの因子負荷量が大い、既存政党に関する政治的無力感が抽出されている。

表2 社会意識の因子パターン（韓国の3地域）

ソウル	共通性	1	2	3	4
男は外で働き女は家庭	.362	-.025	.613	-.037	.014
政治はやりたい人にまかせる	.229	.005	.464	.054	-.060
伝統に合わないことも受け入れる	.096	.065	.198	.177	-.057
親の地位は必要	.166	-.015	.036	.403	.003
政治を変えることはできない	.476	-.032	-.076	.708	.019
すべての人が同収入	.221	.348	.197	.107	-.058
福祉を充実	.411	.655	-.042	.024	-.038
国民の意見は反映されない	.200	.181	.018	.098	.271
相続税を増やしてもよい	.539	.793	-.082	-.034	-.078
権威のある人々には常に敬意を	.114	-.060	.351	-.080	.058
政府が介入しないほうが	.086	.092	.193	.036	.109
貧しい人の所得税は減らす	.463	.686	.029	-.097	.055
自分の意見を代表する政党はない	.507	-.020	.003	-.013	.726
貧富の差が大きすぎる	.328	.456	-.015	.041	.171
寄与率		17.257	5.758	4.271	2.705
累積寄与率		17.257	23.015	27.286	29.991
大邱	共通性	1	2	3	4
男は外で働き女は家庭	.278	.035	.509	-.037	.124
政治はやりたい人にまかせる	.326	.027	.556	.094	-.003
伝統に合わないことも受け入れる	.149	-.046	.220	-.003	.311
親の地位は必要	.144	-.095	.145	.293	.118
政治を変えることはできない	.558	.026	-.008	.757	-.049
すべての人が同収入	.200	.379	.250	-.017	.049
福祉を充実	.562	.785	.015	.029	-.231
国民の意見は反映されない	.268	.256	-.126	.044	.338
相続税を増やしてもよい	.512	.721	.037	-.095	.061
権威のある人々には常に敬意を	.044	-.046	.062	-.043	.215
政府が介入しないほうが	.126	-.040	.068	.024	.343
貧しい人の所得税は減らす	.533	.741	.045	.001	-.027
自分の意見を代表する政党はない	.199	.133	-.049	.016	.378
貧富の差が大きすぎる	.392	.520	-.139	.061	.139
寄与率		16.997	6.873	3.928	2.860
累積寄与率		16.997	23.870	27.798	30.658
春川	共通性	1	2	3	4
男は外で働き女は家庭	.268	-.048	.505	.015	.049
政治はやりたい人にまかせる	.305	.008	.562	-.033	-.044
伝統に合わないことも受け入れる	.153	.094	.361	.023	.013
親の地位は必要	.181	-.030	-.016	-.084	.489
政治を変えることはできない	.283	.005	.001	.081	.475
すべての人が同収入	.213	.421	.227	-.096	.014
福祉を充実	.502	.710	-.060	.020	-.025
国民の意見は反映されない	.353	-.017	.058	.545	.079
相続税を増やしてもよい	.520	.758	-.006	-.106	.043
権威のある人々には常に敬意を	.046	-.080	.199	.028	-.109
政府が介入しないほうが	.114	.017	.268	.141	.041
貧しい人の所得税は減らす	.454	.657	-.008	.093	-.085
自分の意見を代表する政党はない	.307	-.019	.009	.622	-.102
貧富の差が大きすぎる	.346	.341	-.068	.270	.075
寄与率		17.333	6.304	3.732	1.527
累積寄与率		17.333	23.637	27.369	28.897

注)プロマックス回転後の因子パターン

韓国第3の都市である大邱は、第1因子と第2因子はソウルと同様な結果である。ソウルの第1因子と同様な5項目から構成される社民主義と、「男は外で働き女は家庭」「政治はやりたい人にまかせる」の2項目から構成される権威主義である。第3因子は「政治を変えることはできない」のみで構成される保守主義的な傾向が抽出されている。第4因子は、「伝統に合わないことやこれまでと異なるやり方でも受け入れる」「国民の意見は反映されない」「政府が介入しない方が経済はうまくいく」「自分の意見を代表する政党はない」の負荷量大きい。ただの政治的無力感ではなく、現在の政府を批判するような内容になっている。やや新自由主義的な価値観であろう。

より人口が少ない春川も、第1因子の社民主義と、第2因子の権威主義は韓国の他の2地域と同様である。第3因子は、「国民の意見は反映されない」「自分の意見を代表する政党はない」の2項目の負荷が大きく、政治的無力感の因子が抽出されている。第4因子は、ソウルの第3因子である「親の社会的地位が高くないと、高い地位にはなかなかつけない」と「政治を変えることはできない」から構成される保守主義である。

韓国においては、社民主義、権威主義的価値観に続いて、保守主義、政治的無力感、新自由主義の3つのうちいずれか2つが社会意識の因子として抽出された。抽出される因子は日本と同様であるが、ただ、それぞれの項目の結びつき方はやや異なる。日本と韓国の何れの地域においても、4つの因子の累積寄与率は30%程である。

(3) 日本・韓国の社会意識の構造

最後に、すべての地域をまとめたデータによって因子分析を試みた。その結果は表3である。「福祉を充実」「相続税を増やしてもよい」「貧しい人の所得税は減らす」「貧富の差が大きすぎる」といった社会民主主義的な価値観が第1因子である。第2因子は「政治を変えることはできない」「国民の意見は反映されない」「自分の意見を代表する政党はない」の負荷量大きい政治的無力感である。第3因子は、「男は外で働き女は家庭」「政治はやりたい人に任せる」「権威のある人々には常に敬意を」の権威主義的価値観、第4因子は「政府が介入しない方が経済はうまくいく」の新自由主義である。この4因子と社会参加の関係を分析していく。

表3 社会意識の因子パターン（全データ）

全データ	共通性	1	2	3	4
男は外で働き女は家庭	.140	-.035	-.057	.442	.204
政治はやりたい人にまかせる	.258	-.033	.014	.541	.075
伝統に合わないことも受け入れる	.043	-.099	.023	.099	.221
親の地位は必要	.183	.089	.257	.194	-.022
政治を変えることはできない	.457	-.057	.597	.107	-.201
すべての人が同収入	.231	.381	.082	.122	.000
福祉を充実	.556	.779	-.045	-.055	-.060
国民の意見は反映されない	.353	.083	.549	-.141	.184
相続税を増やしてもよい	.500	.712	-.027	.027	-.004
権威のある人々には常に敬意を	.162	.213	-.117	.350	.040
政府が介入しないほうが	.162	.037	.168	.213	.361
貧しい人の所得税は減らす	.584	.784	-.032	-.020	.039
自分の意見を代表する政党はない	.289	-.019	.541	-.102	.180
貧富の差が大きすぎる	.456	.568	.164	-.004	-.106
寄与率		20.407	4.980	3.985	1.870
累積寄与率		20.407	25.387	29.372	31.242

3. 社会参加と社会意識

(1) 回帰分析

上記の4つの社会意識、社会民主主義、政治的無力感、権威主義、新自由主義の因子スコアを用いて、社会参加への影響をしてみる。従属変数の社会参加は、1節で取り上げた3つの社会参加の主成分スコアである。社会参加=.767「有力者や役所への要望」+.743「選挙運動」+.740「社会的活動」で推定される。56%の寄与率であり、共通性は、順に、.587、.551、.547である。

まず、地域ごとの重回帰分析を行う。コントロール変数として、性別、年齢、世帯収入、学歴、家族人数を用いる。

日本の3地域においては、政治的無力感の負の影響が見られる。政治的無力感を感じているほど、社会参加をしない。東京と仙台はそれに加えて社民主義の正の影響がある。社民主義であるほど、社会参加をする。韓国の3地域のうちソウルはすべての社会意識の影響がない。大邱と春川は新自由主義の正の影響がある。大邱はそれに加えて、社民主義の正の影響がある。

表 4 社会参加の回帰分析

	東京					仙台				
	B	s. e.	β	t	p	B	s. e.	β	t	p
(定数)	-0.891	.187		-4.753	.000	-1.108	.172		-6.438	.000
社民主義	.140	.042	.155	3.345	.001	.174	.038	.174	4.586	.000
政治的無力感	-.286	.048	-.292	-5.987	.000	-.189	.042	-.178	-4.514	.000
伝統的権威主義	.037	.065	.031	.566	.572	-.085	.060	-.062	-1.420	.156
新自由主義	.083	.069	.057	1.199	.231	.032	.060	.021	.536	.592
女性ダミー	.120	.064	.071	1.873	.062	-.104	.058	-.056	-1.789	.074
年齢	.010	.002	.158	4.024	.000	.014	.002	.212	6.380	.000
世帯収入	.005	.010	.021	.498	.619	.024	.009	.092	2.570	.010
学歴	.019	.026	.032	.742	.458	.036	.022	.056	1.674	.094
家族人数	.002	.022	.004	.109	.913	.028	.021	.046	1.351	.177
R ²	.090					.122				
Adj. R ²	.079					.114				
n	731					993				

	仙北					ソウル				
	B	s. e.	β	t	p	B	s. e.	β	t	p
(定数)	-1.019	.241		-4.230	.000	-.132	.233		-.569	.570
社民主義	.089	.047	.077	1.881	.060	.016	.071	.010	.220	.826
政治的無力感	-.172	.054	-.137	-3.168	.002	-.071	.063	-.048	-1.120	.263
伝統的権威主義	.020	.068	.013	.295	.768	.009	.070	.006	.134	.893
新自由主義	.140	.073	.076	1.924	.055	.091	.083	.043	1.101	.271
女性ダミー	-.235	.070	-.110	-3.329	.001	-.241	.070	-.117	-3.447	.001
年齢	.024	.003	.298	8.185	.000	.000	.003	.000	-.011	.991
世帯収入	-.005	.012	-.014	-.390	.697	-.007	.015	-.015	-.429	.668
学歴	-.024	.031	-.029	-.762	.446	.072	.026	.104	2.792	.005
家族人数	.071	.022	.114	3.307	.001	.015	.026	.020	.589	.556
R ²	.144					.033				
Adj. R ²	.134					.023				
n	837					889				

	大邱					春川				
	B	s. e.	β	t	p	B	s. e.	β	t	p
(定数)	-.390	.265		-1.475	.141	-.116	.266		-.438	.662
社民主義	.122	.062	.083	1.970	.049	.028	.067	.018	.415	.679
政治的無力感	-.108	.065	-.075	-1.663	.097	-.101	.068	-.068	-1.491	.136
伝統的権威主義	.062	.071	.038	.871	.384	.063	.073	.036	.861	.389
新自由主義	.167	.080	.082	2.089	.037	.232	.084	.106	2.764	.006
女性ダミー	-.145	.067	-.075	-2.156	.031	-.170	.074	-.081	-2.305	.021
年齢	-.002	.003	-.029	-.700	.484	.004	.003	.052	1.269	.205
世帯収入	.015	.014	.038	1.099	.272	-.024	.018	-.046	-1.344	.179
学歴	.057	.027	.086	2.127	.034	.037	.027	.055	1.361	.174
家族人数	.051	.029	.058	1.718	.086	.035	.028	.043	1.257	.209
R ²	.031					.027				
Adj. R ²	.020					.017				
n	856					852				

(2) マルチレベルモデルによる分析

2 節の地域別の因子分析によれば、日本の因子の順番は、社民主義、政治的無力感、権威主義であるのに対して、韓国は、社民主義、権威主義、政治的無力感であった。新自由主義は両方の国において、1つの地域において抽出されたに過ぎない。また、地域別の重回帰分析の結果は、地域によって社会意識の影響の仕方が異なる。これらの分析においては、地域別の分析であるために、国や地域にかかわらず各意識が社会参加にどのような影響があるのか、あるいは、地域に無関係な影響と地域ごとに異なる影響をどのように判別することができるのかという課題を答えることができない。そこで、すべてのデータを統一的に扱い、地域ごとの影響も判断できるマルチレベルモデルによって分析を試みた。

まず最初は、地域ごとの切片のみが変量効果を持つというモデル、いわゆるヌルモデルを分析した。表 5 のように、レベル 2 つまり地域ごとの切片の分散は有意であり、地域ごとに社会参加のスタートラインが異なることがわかる。

モデル 1

$$\text{Level 1: 社会参加} = \beta_0 + \gamma$$

$$\text{Level 2: } \beta_0 = \gamma_{00} + u_0$$

表 5 社会参加のマルチレベルモデル 1 (ヌルモデル)

固定効果		係数	s. e.	t	d.f.	p
切片	β_0	-.006	.0554	-.104	5	.921
ランダム効果		推定値	s. e.	χ^2	d.f.	p
u_0	Level2 分散	.131	.0173	92.178	5	0.000 ***
γ	Level1 分散	.984	.968			
deviance		14486.388			3	

次に、すべてのコントロール変数と社会意識を固定効果として含めたモデルを分析した。表 6 のように、社民主義と新自由主義の正の社会参加への影響があり、政治的無力感の負の影響がある。権威主義は影響が見られない。

さらに、このモデルに各社会意識の係数がランダムであると仮定してモデルを組み立てた。表 7 のように社民主義の傾きのみが有意な変動があるという結果である。このランダム係数を仮定すると新自由主義の固定効果は消えている。

モデル 2

$$\text{Level 1: 社会参加} = \beta_0 + \beta_1 x_1 + \dots + \beta_{10} x_{10} + \gamma$$

$$\text{Level 2: } \beta_0 = \gamma_{00} + u_0$$

表 6 社会参加のマルチレベルモデル 2 (固定係数モデル)

固定効果		係数	s. e.	t	d.f.	p		
	切片	β_0	-.580	.110	-5.265	5	.001	**
x_1	年齢	β_1	.010	.001	8.536	5147	.000	***
x_2	女性ダミー	β_2	-.134	.028	-4.858	5147	.000	***
x_3	世帯収入	β_3	.007	.005	1.435	5147	.151	
x_4	学歴	β_4	.036	.011	3.386	5147	.001	**
x_5	家族人数	β_5	.040	.010	4.120	5147	.000	***
x_6	社民主義	β_6	.111	.021	5.251	5147	.000	***
x_7	政治的無力感	β_7	-.165	.023	-7.316	5147	.000	***
x_8	権威主義	β_8	-.021	.028	-.765	5147	.444	
x_9	新自由主義	β_9	.078	.030	2.608	5147	.009	**
x_{10}	日本ダミー	β_{10}	-.200	.093	-2.154	5147	.031	*
ランダム効果		推定値	s. e.	χ^2	d.f.	p		
u_0	Level2 分散	.011	.105	63.980	5	.000	***	
γ	Level1 分散	.924	.961					
deviance		14245.032			13			

最後に、有意な変動係数ではなかった権威主義と新自由主義の傾きを除いたモデルを分析し、これを最終モデルとする。表 8 のように、新自由主義の固定効果が復活し、政治的無力感の傾きの変動効果が、10%水準であるが有意になった。社民主義と政治的無力感の社会参加への影響は地域ごとに異なる。

モデル 3

$$\text{Level 1: 社会参加} = \beta_0 + \beta_1 x_1 + \dots + \beta_{10} x_{10} + \gamma$$

$$\text{Level 2: } \beta_0 = \gamma_{00} + u_0$$

$$\beta_8 = \gamma_{80} + u_8$$

$$\beta_9 = \gamma_{90} + u_9$$

$$\beta_{10} = \gamma_{100} + u_{10}$$

$$\beta_{11} = \gamma_{110} + u_{11}$$

表 7 社会参加のマルチレベルモデル 3 (ランダム係数モデル)

固定効果		係数	s. e.	t	d.f.	p	
	切片	β_0	-.655	.110	-5.981	5	.000 ***
X ₁	年齢	β_1	.010	.001	8.441	5147	.000 ***
X ₂	女性ダミー	β_2	-.135	.028	-4.899	5147	.000 ***
X ₃	世帯収入	β_3	.007	.005	1.501	5147	.133
X ₄	学歴	β_4	.037	.011	3.480	5147	.001 **
X ₅	家族人数	β_5	.040	.010	4.100	5147	.000 ***
X ₆	社民主義	β_6	.099	.032	3.052	5	.031 *
X ₇	政治的無力感	β_7	-.156	.030	-5.124	5	.001 **
X ₈	権威主義	β_8	-.024	.029	-.819	5	.450
X ₉	新自由主義	β_9	.078	.035	2.233	5	.074
X ₁₀	日本ダミー	β_{10}	-.029	.073	-.402	5147	.687
ランダム効果		推定値	s. e.	χ^2	d.f.	p	
Level2 分散							
U ₀	切片	.017	.131	81.414	5	.000 **	
U ₈	社民主義の傾き	.004	.059	11.792	5	.037 *	
U ₉	政治的無力感の傾き	.002	.049	9.214	5	.100	
U ₁₀	権威主義の傾き	.000	.022	3.907	5	>.500	
U ₁₁	新自由主義の傾き	.002	.044	4.285	5	>.500	
Y	Level1 分散	.922	.960	81.414			
deviance		4238.611			27		

4. 社民主義と政治的無関心の社会参加への影響

社民主義と社会参加の予測値との関係においては、図 4 のようにその正の傾きは、東京、仙台、大邱、仙北、ソウル、春川の順に強い。社民主義の程度と社会参加の程度が密接に結びつくのは、東京と仙台である。この 2 地域においては、社会民主主義的価値観を持っている人ほど、社会参加をするという関係が明らかである。ただし、社会参加の程度そのものは、ソウルや春川や仙北といった地域の方が盛んである。予測値を見ると、東京や仙台でもっとも高い社民主義的意識を持っている人の社会参加は、ソウルや春川のもっとも低い社民主義を持っている人の社会参加と同程度である。

モデル 4

$$\text{Level 1: 社会参加} = \beta_0 + \beta_1 x_1 + \dots + \beta_{10} x_{10} + \gamma$$

$$\text{Level 2: } \beta_0 = \gamma_{00} + u_0$$

$$\beta_8 = \gamma_{80} + u_8$$

$$\beta_9 = \gamma_{90} + u_9$$

表 8 社会参加のマルチレベルモデル 4 (ランダム係数モデル)

固定効果		係数	s. e.	t	d.f.	p	
	切片	β_0	-.658	.111	-5.945	5	.000 ***
X ₁	年齢	β_1	.010	.001	8.535	5147	.000 ***
X ₂	女性ダミー	β_2	-.134	.028	-4.854	5147	.000 ***
X ₃	世帯収入	β_3	.007	.005	1.472	5147	.141
X ₄	学歴	β_4	.036	.011	3.409	5147	.001 **
X ₅	家族人数	β_5	.040	.010	4.092	5147	.000 ***
X ₆	社民主義	β_6	.098	.031	3.188	5	.028 *
X ₇	政治的無力感	β_7	-.156	.031	-5.035	5	.002 **
X ₈	権威主義	β_8	-.021	.028	-.768	5147	.443
X ₉	新自由主義	β_9	.077	.030	2.576	5147	.010 *
X ₁₀	日本ダミー	β_{10}	-.030	.078	-.381	5147	.703
ランダム効果		推定値	s. e.	χ^2	d.f.	p	
	Level2 分散						
u ₀	切片	.017	.131	85.422	5	.000 ***	
u ₈	社民主義の傾き	.003	.054	11.513	5	.042 *	
u ₉	政治的無力感の傾き	.003	.051	9.756	5	.082	
Y	Level1 分散	.923	.961				
deviance		14240.620			18		

図 5 のように政治的無力感は社会参加に負の影響を与える。その影響の度合いは、東京、仙台、大邱、仙北、ソウル、春川の順に低い。東京や仙台においては、政治的無力感は社会参加に大きな負の影響を与えている。ソウルや春川においてもその影響は負であるが、東京や仙台に比べるとその度合いは少ない。

分析結果をまとめると、まず、新自由主義はやや弱い影響ながら、どの地域においても社会参加に正の影響を与える。社民主義は、どの地域においても正の影響を与えているが、その影響の仕方は、東京や仙台といった平均的には社会参加が消極である地域において、強い影響がある。ただし、たとえ強い社民主義を持っていたとしても、この 2 地域の社会参加の程度は、ソウルや春川にはかなわない。政治的無力感は、社会参加に負の影響をどの地域でも与えている。しかし、その影響の仕方は地域によって異なる。特に、東京や仙台的政治的無力感の社会参加の消極性への影響は深刻である。以上の分析の結果、社会意識と政治参加の関係は、国や地域によって異なる。2 国間を比べれば、概して、韓国の方が価値観の程度にかかわらず、社会参加が日常的である。日本は、人口の少ない地域では韓国と似た傾向をしめすが、都市においては社会参加が日常ではなく、社民主義が強いが、政治的無力感がない人々によって、限定的に行われているに過ぎない。以上のことが分析から明らかとなった。

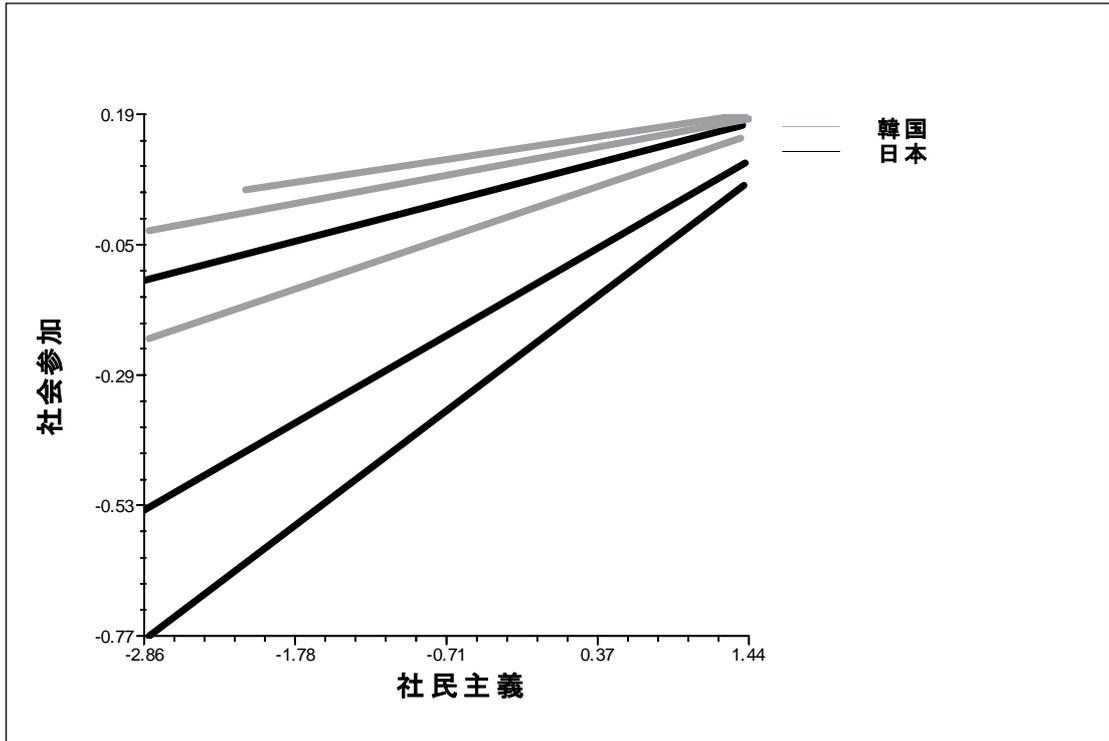


図 4 社主義による社会参加の予測値

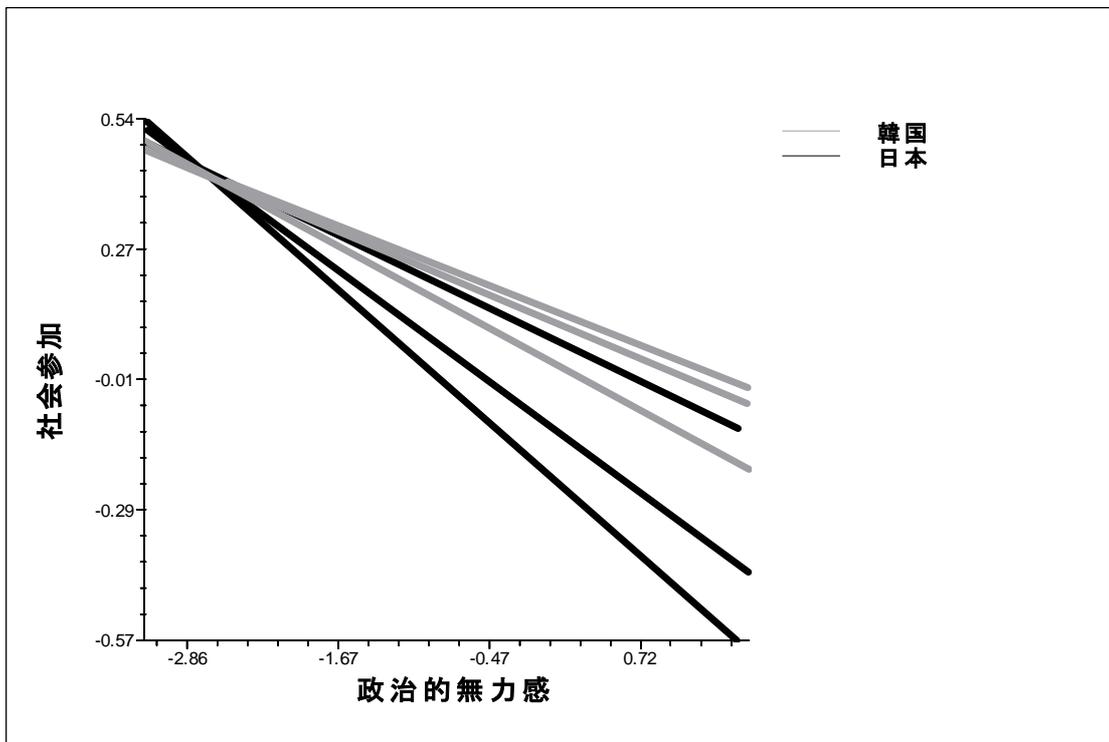


図 5 政治的無力感による社会参加の予測値